

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	宮前区第1グループ(宮崎・有馬・野川)	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

	H27		H28		H27		H28		
	利用者数	登録者数	利用者数	登録者数	利用者数	登録者数	利用者数	登録者数	
利用実績	1 宮崎こども文化センター		②年間延べ利用者数		1,404団体		1,402団体		
	①年間延べ利用者数	40,094人	46,448人	②年間延べ利用者数		33,001人		32,910人	
	2 宮崎小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		17,884人		20,080人		
	①登録者数	470人	500人	②年間延べ利用者数		375団体		354団体	
	3 宮崎台小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		21,859人		21,619人		
	①登録者数	361人	348人	②年間延べ利用者数		11,123人		11,260人	
	1 有馬こども文化センター		②年間延べ利用者数		20,126人		23,297人		
	①年間延べ利用者数	27,380人	27,241人	②年間延べ利用者数		496団体		494団体	
	2 西有馬小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		8,804人		7,897人		
	①登録者数	432人	439人	②年間延べ利用者数		14,690人		14,834人	
	3 有馬小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		11,663人		11,330人		
	①登録者数	177人	169人	②年間延べ利用者数		48,193人		50,557人	
4 鷺沼小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		496団体		494団体			
①登録者数	394人	438人	②年間延べ利用者数		8,804人		7,897人		
1 野川こども文化センター		②年間延べ利用者数		14,690人		14,834人			
①年間延べ利用者数	48,193人	50,557人	②年間延べ利用者数		11,663人		11,330人		
2 西野川小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		11,663人		11,330人			
①登録者数	182人	177人	②年間延べ利用者数		496団体		494団体		
3 野川小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		8,804人		7,897人			
①登録者数	261人	259人	②年間延べ利用者数		14,690人		14,834人		
3 南野川小学校わくわくプラザ		②年間延べ利用者数		11,663人		11,330人			
①登録者数	228人	208人	②年間延べ利用者数		496団体		494団体		
収支実績	単位:円								
	1 収入								
	指定管理料			179,926,802					
	2 支出								
人件費			151,625,045						
管理費			14,679,378						
事務経費			9,069,248						
その他経費			12,083,929						
合計			187,457,600						
3 差引			-7,530,798						
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。								

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由)	・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・こども文化センターでは、特に、乳幼児の団体利用が多く、保護者の憩いの場となっており、子どもが小・中・高校生になった時にも、保護者が安心して遊ばせられる場所として機能している。 ・また、納涼祭・コンサート・花見等の様々な行事を新たに実施するとともに、老人いこいの家と連携し、「むかしあそびの日」を開催したり、高齢者との囲碁クラブを発足するなど、多世代交流の促進を図りながら、積極的に新しい取組を行っていた。 ・わくわくプラザにおいては、思いっきり体を動かして遊ぶ「わくどきタイム」を試験的に実施し、次年度の本格実施につなげている。さらに、子ども運営会議や子どもリーダー等が話し合っており、遊びの内容を決め、子ども同士で遊びを教え合い、育ち合う環境づくりを進めるなど、児童の健全育成が図られている。 ・こうした取組を通じて、特に、宮崎こども文化センターでは、年間延べ利用者数が前年度より約6,300人増加している。				

サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	4	4
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
	保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか	5	3	3
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用ニーズについては、子どもの意見から、納涼祭の行事が、初めての開催ができた、JAL工場見学遠足が実現するなど、子ども運営協議会により子ども達自身が考えたことが具現化する取組がなされている。 ・また、意見箱のアンケート用紙に、項目を設けたことで意見を書きやすくなり、意見数も増えている。 ・さらに、来館しなくなった児童について、学校に連絡を取る等の連携を図り、懸案事項を学校へ報告する体制が整っている。 ・学校及び行政機関との連携については、この地域が、町内会活動が非常に活発で、13年間続いている「さんま祭り」では、子ども会・町内会等の協力を得たり、道を歩いているだけで、地域の方から声をかけられる関係作りができていることから、地域の団体とパンケーキ作りをしたり、高齢者施設でハロウィンを行ったりして、多世代との交流を積極的に図っている。 ・事業の広報としては、各館で、中高生たよりを年3～4回発行しているが、特に、野川こども文化センターでは、中高生たよりを年3回発行したことで、中学生の利用が774名増えるとともに、乳幼児たよりを年4回発行したことで、年間の乳幼児行事の参加者が430名増えることにつながっている。 ・保護者懇談会は、定期的に各施設において実施し、意見・要望を受けながら、事業の実施に努めるとともに、活動の写真をポスターにし、貼り出すことで、その様子がわかるよう工夫を施するなど、円滑な施設の運営を行っている。 					
組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
		職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。			
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修については、運営法人の10年以上にわたる青少年分野における人材のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的かつ多様な研修が行われており、受講者はスタッフ会議、ミニミーティング等の時間を有効に使い、研修内容について情報共有を行っている。 ・また、宮前区で盛んなドッジビーの審判研修、さらにグループ独自の研修として、宿泊キャンプ前に野外活動事前研修等を実施するなど、地域特性に応じた研修を実施することに努めている。 ・さらに、主任研修では、他施設で研修した内容を主任が講師となり、区の職員へ講義を行うことで、知識の共有化を図っている。 ・個人情報の取扱については、法人において定めている個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報等は鍵のかかる保管庫に保管されている。 ・また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	3	3
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	4	4
		災害発生時に備えた対応が図られているか。			
災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。					
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の保守の管理については、利用者が安心して利用できるよう点検に関する事項を定めたチェックリストに基づき、スタッフが定期的に点検を行い、必要に応じた維持・補修が行われ、安全確保が図られている。 ・防犯対策及び防災対策については、館ごとに地域の安全マップを作成し、利用者の意識向上を図るとともに、不審者対応マニュアルの作成、災害備蓄品の常備等を行い、防犯・防災体制の強化に取り組んでいる。 ・また、スポーツを活用した防犯対策講座を実施し、利用者の意見を取り入れ、小学生だけではなく、新たに幼児親子も参加できるようにしたところ、参加者が増え、好評を博している。 ・さらに、乳幼児を含めた避難訓練、町内会の防災訓練への参加、小学校と合同の避難訓練、老人いこいの家と共催による避難訓練、防火訓練等を実施するとともに、地域ボランティアを講師とした防災研修等を実施するなど、地域と連携を図りながら取組を進めている。 					

収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
	効率的・効果的な支出	「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。	5	3	3
		効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。			
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
(評価の理由) ・金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 ・受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

指定管理者制度導入以前から委託事業者として、こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営を行っていた経験を活かし、52施設の指定管理者として、法人本部を中心に、全市規模、区規模の合同行事や職員研修、偏りのないサービスの提供が行えている。
 また、グループとしては、ドッジビー大会、わくドキタイム等、利用者の要望を活かしたグループ合同行事など、多くの世代が楽しめる取組を実施し、乳幼児から高齢者まで幅広い利用者のニーズに即した事業が展開されている。
 さらに、地域に根づいた運営、利用者の声の反映など、地域・家庭と施設が連携し一体となった運営がなされている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センターの来館者が利用しやすい環境の整備に努め、地域と連携しながら、地域包括ケアシステムの構築に向け、高齢者、障害者、子ども、子育て世代、今後何らかの支援が必要な人などの、日頃からの顔が見える場所として、利用されるよう取り組むこと。
 また、いじめや友人関係などの課題を抱えた子ども・若者が多い中、自宅・学校以外の居場所としての機能を強化するとともに、児童が安全で安心して過ごせるわくわくプラザの運営に努めることを期待する。